



RLI The Rotary Leadership Institute

第 2790 地区 2014-15 宇佐見ガバナー年度

地区ロータリー・リーダーシップ研究会

——地区研修・協議会参考資料——

2014-4-29

地区ロータリー・リーダーシップ研究会

- ・リーダー 中村 博亘(柏西)
- ・サブリーダー 諸岡 靖彦(成田)
- ・サブリーダー 海寶 勘一(千葉西)

R L I (ロータリー・リーダーシップ研究会)

・目的と意義

RLI は質の高いリーダーシップの研修を通じてクラブの活性化を願った、草の根*の多地区合同プログラムであり、その目的は、ロータリアンの自主性と卓越した指導性を涵養し、クラブの刷新性と柔軟性を育て、ロータリーをさらに楽しみながら活性化することです。

・歴史

1992年にアメリカ・ニュージャージー州 (RI・第7510地区) において、元RI理事のデビッド・リンネット氏の発案で始められた研修組織です。

1998年にはアメリカ北東部、中部太平洋岸、カナダの一部まで広がり始めました。

2004年の規定審議会では、パイロット・プログラムとして採用する様に決議され、RLIの活動は自然発生的に伸展し、現在、全世界の300以上の地区に、草の根*のロータリー研修組織として発展しています。

・日本支部の経緯

日本でもRLI日本支部の機運が生まれ、2008年6月に設立が決定し、その後、各地区の理解を深めながらRLI活動が広がり、確実に発展してきました。

2008年6月のRLI日本支部の発足から6年を経て、開催地区も12地区を超え、さらに多くの地区で発足準備がされています。2011年7月1日にはRLI日本支部の組織変更や会則を設け、RLI日本支部事務局をD2770(埼玉東南部)に移転しました。

・研修方法

RLIの研修方法やカリキュラム内容は、RLIの原則や指導方法が基本となります、各地域や国の文化や習慣の違いは尊重し、夫々の違いに応じた方法や内容を加えることは可能です。

参加者は、クラブ内の指導者として活躍するロータリアンや積極的な希望者が集っています。

研修方法は講演や講義ではなく、討論方法を活用して、参加者による、草の根*のディスカッション方式で行われます。時代の変化に対応する新しい情報を取り入れながら、カリキュラムは毎年変更され、プログラムは3コースあります。どのコースも項目内容は違いますが、参加者にはI・II・III全コースに出席することが奨励されています。

また、RLIの研修は、ロータリー活動の指導力を発揮できる意欲ある人に焦点を当てたものであって、特定のロータリーの役職にある人に焦点を合わせ限定するものではありません。

・研修の特色

RLIの研修は、決められたテーマについて、みんなで意見を自由に出し合って討議する形式であり、ディスカッション・リーダー(DL)が進行役になります。参加者に解答の結論を求めるのではなく、課題に対する参加者同士の自由な発言交流を通して、自分自身の解答や方向性を積極的に見出す自己研鑽型の研修方法となっています。

研修のコースは、パートⅠ、パートⅡ、パートⅢの計3日間で基本で、卒後コースの1日が任意となり、パートⅠ・Ⅱ・Ⅲの全研修を受講すると、RLIより修了証書が贈られます。理想的な参加者数は1グループ10名程度で、パート毎に6セッションすべてを研修する形式で行われます。

・研修カリキュラム

研修カリキュラムは、本部にて準備した国際的に統一したものを基本使用します。

しかし、毎年RLI国際本部によってカリキュラム委員会を開催し、RLI日本支部でもカリキュラム特別委員会を設け、各参加地区からの意見を調整して、RLI国際委員会に変更の上申ができることになっています。

RLI 各パートのセッションテーマ —当地区 2014年実例—

PartⅠ 2014年1月16日 千葉市文化センター+商工会議所ホール

セッションテーマ

1. リーダーの本質(リーダーシップ)
2. 私のロータリー世界(会員増強)
3. 会員を引き込む(会員増強)
4. 私たちの財団(奉仕)
5. 倫理と職業奉仕(会員増強)
6. 奉仕プロジェクト(奉仕)

PartⅡ 2014年3月2日 千葉市文化センター+商工会議所ホール

セッションテーマ

1. 戦略計画とクラブの分析(リーダーシップ)
2. 目標とする奉仕：R財団Ⅱ(奉仕)
3. 国際奉仕(奉仕)
4. チーム作りとクラブ・コミュニケーション(リーダーシップ)
5. 米山記念奨学会(奉仕)
6. 会員を惹きつける(会員増強)

PartⅢ 2014年3月26日 千葉市文化センター

セッションテーマ

1. 効果的なリーダーシップ戦略(リーダーシップ)
2. ロータリーの機会(奉仕)
3. 公共イメージと広報(リーダーシップ)
4. ロータリアン、職業奉仕とその可能性(会員増強)
5. 規定審議会(会員増強)
6. 変化をもたらす(奉仕)

卒後コース 2014年5月11日開催予定 千葉市文化センター
セッションテーマ 1.公共イメージ 2.リーダーシップ

・2790 地区の運営

2010年7月にあった RLI 支部総会に参加する機会を得て、一気に地区導入の機運が高まり、2011年に8名が2750地区 RLI に参加する。その間に地区開催の準備は地道に進められ、今日まで100回を超す会合を重ね、併せて2750地区と2770地区での研鑽を積んできた。今まで4年間に自主参加で研鑽を積み、資格取得者として現在29名がDL(ディスカッションリーダー)として活動している。2013年にはDL養成講座も自主開催することができた。関口ガバナー年度で活動予算もつき、初めて地区 RLI 実行委員会を組織し、下記一覧のようにパートⅠ・Ⅱ・Ⅲの地区主催の RLI ができた。その際パート毎にアンケートを実施した結果は、新鮮な価値と気づきの語り合いができと高い評価があり、自クラブでもロータリーを学び合い、真の親睦と奉仕の感動を分かち合いたいとの集計結果があります。

・パートⅠ	2014年1月16日開催	34RC	68名参加
・パートⅡ	2014年3月2日開催	32RC	57名参加 (地区外7名参加)
・パートⅢ	2014年3月26日開催	34RC	63名参加 (地区外5名参加)
・卒後コース	2014年5月11日開催予定	27RC	45名参加予定

・宇佐見ガバナー年度の RLI 活動計画

- 1・参加地区として負担金、RLI 本部(1万円)と日本支部(2万円)に年会費を納付願う。
- 2・各クラブに RLI 開催案内(期日：会場)をできるだけ早くにお届けする。
- 3・参加者の決定はクラブの自治に一任するが、個人参加も含め、申し込み者数によっては制限を設ける可能性があります。
- 4・地区 RLI は実施計画と予算を綿密にたて、セッションの DL を要請する RLI 実行委員会の組織に運営を一任し、地区 RLI と実行委員会が一体になって誠実な運営を心がける。
- 5・参加する方々の利便と満足度を優先させるために、年度継続する地区行事として、様々な対応ができるようにアンケート集計を継承し、参加者と共に尊い責任を全うしたい。
- 6・地区行事として情報伝達の徹底をはかり、万遍なく参加できる環境を工夫したい。
- 7・RLI 実行委員会となる DL の研鑽を一層高めていく環境を支援し構築させたい。

私達 DL の心構え

私たちは世界RLI本部および日本支部の方針に則り クラブの強化に役立つように日々研鑽します それは RLI の基本的な姿勢である公平と多様性の訓練であり謙虚に行動し 人間性の向上を究めつつ RLI の神髄に真心を込めることなのです

※草の根＝ロータリアン自らによる、地道な涵養の学び合い